

広瀬川水系の流木

仙台市博物館 学芸企画室 黒田 風花

第10回

仙台藩の水の道

今回は、現在の青葉区西部の道を紹介
します。この地域を通っていた江戸時代
の道といえば、仙台城下から関山峠を越
えて出羽国へ抜ける関山街道や、定義如
来の参詣道としても用いられた定義道な
どが知られていますが、このほかにも仙
台藩にとって重要な道がありました。そ
のひとつが、仙台藩の流木に使われた広
瀬川水系の運搬路です。

流木とは、燃料用の薪を川に流して運
ぶことや、その薪をさします。仙台藩では
藩士に供給するための材木を広瀬川や名
取川の上流域にあった藩有林から切り出
し、川に流して城下の近くに運びました。
広瀬川上流域では、大倉村や作並村・



仙台藩の流木方が建立した石碑（熊ヶ根）

新川村などで広範囲に山林が広がり、支
流の大倉川・新川川で藩による流木がお
こなわれました。新川川方面からは鳳鳴
滝を迂回するため、川崎堰を経由して
熊ヶ根の関という集落付近で広瀬川に流
されました。広瀬川を下ってきた流木は、
角五郎木場で水揚げされ、集積・搬送さ
れました。

流木伐採と信仰

大倉村北部の後白髪山から船形山（御
所山）にかけての一带は古くから霊地とさ
れ、江戸時代のこの地域では、木を切るこ
とが天候不順の原因になると信じられてい
ました。一方で、仙台藩の流木事業により
伐採が必要とされ、藩や藩から流木を請
け負った商人と村人たちとの間で、しばし
ば騒動が起きました。

肝入や農民たちは、流木伐採のために
山に入ると雨が降り、凶作・飢饉の原因と
なることを理由に、たびたび伐採中止を求
めました。これにより、文久三年（一八六三）
に藩は伐採の範囲と時期を限定する裁定
を下しました。しかしこの問題は、凶作の
際に村人が藩に対しておこなった年貢の減
免をめぐる駆け引きという面もみられ、明
治時代まで尾を引くことになりました。

流木のその後

明治時代になると、藩による流木はな
くなりしましたが、薪炭は燃料として用い
られ続けたため、明治十年（一八七七）
に宮城流木会社などの民間業者によって
流木が復活しました。しかし、石炭や亜
炭の普及によって薪炭需要は減少し、昭
和十年頃になるとほとんど行われなくな
りました。

現在、定義如来の境内には、白鬚大明
神の石碑があります。これは、流木の伐
採による天候不順を防ぐため、天保三年
（一八三二）に建てられました。また、熊
ヶ根には、天保十四年に仙台藩の役人
（流木方）が作業の安全と順調な天候を
願って建てた石碑が残っています。仙台
の流木は姿を消しましたが、これらの石
碑はこの地域にあった水の道と信仰の歴
史を今に伝えています。



流木図(部分) 大正8年(1919) 仙台市博物館蔵
大橋の上流側にあった宮城流木会社の貯木場が描かれている。

※新型コロナウイルスの感染拡
大状況等により、開催期間等
が変更になる場合がございます。

旬の常設展2021 秋

奥羽再仕置 430年記念

政宗と秀吉 ほか

9月14日(火) (予定) ~ 9月30日(木)

観覧料：一般・大学生460円、高校生230円、小・中学生110円

資料名 左:重要文化財 豊臣秀吉朱印状
伊達政宗宛、右:市指定文化財 黒漆五枚
駒具足 伊達政宗所用(菅野家伝来) 部分

長期休館のお知らせ

仙台市博物館は、
令和3年10月1日から
令和6年3月31日(予定)まで
大規模改修工事のため休館いたし
ます。ご不便をおかけいたしますが、
ご理解・ご協力をお願いいたします。

※ご来館の際は、マスクの着用をお願いいたします。

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

※開館状況など最新の情報は、博物館ホームページをご覧ください。

▶博物館ホームページ

仙台市博物館 検索

▶博物館ツイッター

@sendai_shihaku 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) Tel:022-225-3074